

通史：半世紀のあゆみ
青春のパライストラ
 現状にとどまるな

編 集 部

1. 温故知新

平成元年度の「OB会誌」の温故知新欄に寄せられた「短信」を冒頭に紹介しておきたい。さまざまな「気遣い」と「動静」などが窺える。なお収録は平成2年である。

- ▷ 何時も決まった人ばかりに（OB会活動や現役指導などを）任せずに、全員で支援するようにしましょう。（松井清・名誉会長・S13年卒）
- ▷ 現役レスリング部は、春季リーグ戦第2部で優勝、顧問の高堂先生が商学博士の学位を、現役総監督の伴氏が関西大学在外研究員としてスイスへなどなど、おめでたいことが続きました。私は健康を害してOB会の皆様にご迷惑をおかけしました。（溝畑武夫・会長・S29年卒）
- ▷ 昨夏、OB会主催の「合宿訪問と親睦旅行」に行ってきました。往路は近江八幡の水郷めぐりで、葦の茂る、のどかな水郷でしばし櫓を漕ぐ。元気なOBは練習で技の指導。夜は「楽樂園」で懇親を深めました。諸兄一人ひとりのご支援をお願いします。（清谷利次・副会長・S30年卒）
- ▷ OB会の行事は、できうるかぎり、出席するようにつとめました。結構楽しい行事も多かった。みなさんも年間1～2回は、是非参加してください。（横山勝利・副会長・S31年卒）
- ▷ 仕事（大阪府会議員）がら、多忙のため、どうしても参加できず、会員の皆様にご迷惑をおかけいたしました。新年度には、何とかして、1回でも多く参加するように努めます。（松浪啓一・副会長・S37年卒）
- ▷ 元年度は、定時総会、新年会、春秋のリーグ戦と合宿訪問旅行を、全会員に、ご案内いたしました。それぞれOBの皆様のご出席、ご協力を賜り、誠に有り難うございました。衷心より厚くお礼申し上げます。新年度は新役員のもとにさらに多くご参加ください。（柏木貞夫・S33年卒）
- ▷ まいど！今年もよろしくをお願いします。OB会費の方も、どうかよろしく、お願いします。（北川俊治・会計・S45年卒）
- ▷ 昨年度より、書記の阿部です。OB諸兄様

のご協力誠にありがとうございます。しかしOB会の運営には数多くの難関があります。本会も新役員を中心に「数は力」の原則どおり、多数のご参加を切にお願いいたします。
(阿部進・書記・S45年卒)

高堂先生の学位論文の論題は「経営労務の構造と展開」である。研究内容は、現代企業における人事・労務管理成立の事情に関する歴史的研究で、我が国における現代的管理の展開をめぐる特質を解明しようと試みたものである。「OB会誌」では、本件にふれて、「高堂博士におかれましては、今後ともお元気で、学問の研究に、また我々レスリングのためにも、ご活躍いただきますようにご祈念申し上げます」と報じている。

新しい「元号」が始まった。関大レスリングも、現状にとどまることなく、新生へと脱皮してほしい。すべてが、そう願っている。

2. 平成元年(1989)・前進を

風俗・流行・歌 スキンヘッド・院内感
染／言葉「はまる」／♪『とんぼ』

こうした元号が変わった年などの大きな節目には、OB諸氏も、指導陣も、現役も、もちろん世間もだが、改めて感慨を抱くことになる。本書では、代表して、藤田監督「平成元年所感」を収録しておきたい。

◇

年号が昭和から平成に変わり、慌ただしい時代に突入したなかで、我が関大レスリング部は、平常心をもって、平成元年春のリーグ戦に臨み、2部優勝をはたしました。この勝ちムードにのって、

念願の1部復帰を狙い、手に汗にぎる素晴らしい試合を展開したのですが、結果は「駒一枚」たらず、残念ながら、悔し涙を流しました。

次の機会にはと、心新たに練習に励み、秋のリーグ戦こそはと臨んだ初戦の「関学」戦。みなのが概が空回りしてしまい、痛恨の「1敗」をきっしてしまい、2位に甘んじなければならず、またも問題点を残し、平成元年が終わりました。しかし冷静に現有勢力を他大学と比較分析した場合、この1年間の成績(春優勝・秋2位・個人戦における活躍)は彼ら自身にとって大きな誇れる勲章であります。

しかし監督にとっては、平成元年も、問題点の残る反省すべき年でありました。昭和から平成に変わったものの、これからも、真の実力を身につけるべく、試行錯誤しながら、現役諸君とともに、新たな挑戦に向かって前進あるのみです。

(「OB会誌」)

◇

主将百木健、副将松田幸大の「2名」は、1年次の入部のときから、2人きりであった。その2人のプロフィールを3回生の安田忠典が、新人類的「表現」法で豊かに書いている。

◇

たった2人の4回生の先輩。主将の百木さん、まだあと2年も大学生活があるんですね。先に卒業して行く私たちを許してください。顔が良くて、スポーツは何でもできて、金もあって(暇を捻出しているアルバイットの名人でした。本当に熱心だった……。)……。でも、人生はそんなにうまく行かないんですね。学連と主将の兼務、ご苦労様でした。あと2年はギャルやトライアスロンに打ち込んでください。

副将の松田さん。車にはねられても、うれしそうだった「まっちゃん」。学祭の夜、酔って女を追いかけるのを邪魔してごめんなさい。でも、あ

のまま行ったら、いまごろ「塀」の向こうですよ。
「段々畑」（大学第1グラウンドの石段観覧席）
でのジャーマンで投げた（？）ことは忘れてください。後輩たちとライバル関係にあった人のよい「まっちゃん」。商社に入っても、格闘技を続けてしまう「まっちゃん」。いつもニコニコ、ハニーでファンキーな「まっちゃん」。

さようなら。2人ともあとのことは、我々に、任せてください。マットの汗の香りが恋しくなったら、いつでも帰ってきてください。（「関大体育会誌」）



まっちゃんこと松田幸大は、平成元年度の西日本学連「カナダ・米国遠征」チームの代表に選ばれている。松田はその経験を生かして、学連委員と両立の百木主将とともに、平成元年度も頑張ってくれた。関大レスリングをして、関係者の誰もが、「関大の4年生」は本物であるという、その評価はまさに「本物」ではある。現状にとどまらないためには、どうすればいいのか。その「本物」根本をしっかりと捉えておきさえすれば、やがて、時節到来という「場面」も掴むことができよう。ただそのときまでに、この「本物」を絶やしてしまっては、駄目だ。



写真▷「カナダ・米国遠征」の松田さん

3. 研究活動報告

1989年6月4日未明、中国の北京で、天安門広場に人民解放軍の戦車や装甲車が突入した。民主化要求で座り込み運動を続ける学生たちを排除するためである。いわゆる「天安門事件」である。阻止しようとする市民との間にも衝突が起こって、死者数千人を出したともいわれている。

11月9日、東ドイツ政府による、市民の「国外旅行・移住規制」の撤廃で、事実上、ベルリンの壁が崩壊した。

12月には、民衆蜂起のために、独裁政権を欲しいままにしてきた、ルーマニアのチャウシェスク政権が崩壊した。

1989年から続くこの激動は、1990年になっても治まらない。そして1991年12月の「ソ連消滅」まで、この東側諸国の大変革潮流は続く。

その両年にまたがる「1年間」、スイスに滞在する総監督の伴義孝は「激動」をつぶさに観察している。一方で本務の研究活動を遂行したことはもちろんのことだが、その要約報告を、「OB会誌」に寄せている。



この度、関西大学在外研究員の任期を終えて、（1991年）4月より本来の任務に就くことになりました。研究員の任期は平成元年4月1日から2年3月31日までの1年間でした。その間は、関西大学レスリング部OB会の皆様をはじめ関係者の方々に何かとご迷惑をおかけしました。この機会をお借りしてお礼を申し上げます。

さて本日は、在外研究期間中の若干の活動報告をお届けさせていただき、1年間のご無沙汰を陳謝いたしたいと存じます。

私は在外研究計画書に次のように書いた。期間中のホームページは、スイスのローザンヌに置く。ローザンヌに存在する国際オリンピック委員会

(IOC)本部の運営する「オリンピック博物館」と、同地所在の国際レスリング連盟(FILA)で資料調査を行う。前者では、「オリンピック運動」関係資料を蒐集し、後者では「レスリングのもろもろ変遷」関係資料を蒐集する。ついでに、可能な限り飛び歩いて、ヨーロッパのスポーツ・体育事情を調査する。

資料の蒐集結果は、計画段階の青写真をはるかに超えて、上首尾であった。そしてその成果は向後の整理の仕方に委ねられることになっている。

レスリング関係の調査の一端を紹介しておこう。調査目的は、「競技ルールの変遷資料」「FILA設立以来の連盟変遷史資料」「暦年の総会議事録」「暦年の各種委員会議事録」「加盟各国の伝統レスリング資料」の蒐集であった。

FILAは、1986年に、「創立70周年」を迎えている。呱呱の声は、1912年に遡ることになる。レスリング競技は、古代オリンピックの主要種目であったことを継承して、近代オリンピック第1回アテネ大会(1896年)以来の種目であったが、その当初から、1912年の第5回ストックホルム大会までの間は、「統一競技ルール」が存在しなかった。そこで当大会に参集してきた各国役員が、翌1913年の「ベルリン会議」で、ルール統一を行おうと確約して、現在のFILAの母体となる、「国際同盟」を結成することになる。

そのベルリン会議では、ドイツ、デンマーク、フィンランド、ロシア、オーストリア、ボヘミア、スウェーデン、ハンガリー、イギリスの9カ国が集まって、次のことを決定している。

すなわち、名称を、ドイツ語の International Amateur Verbund fur Schwerathleti (国際アマチュア重競技協会)と呼び、ドイツ語を公式用語とする。

その協会への加盟種目は、レスリング(グレコのみ)、ボクシング、重量挙げ・綱引き競技・投擲

競技とする。FILAの前身は複合競技団体だったのである。1921年、IOCは「各競技種目は独立して連盟を結成すべき」と勧告を発表した。これに触発されて、英語を公式用語とする、International Amateur Wrestling Federation が独立して誕生し、1954年の東京会議で名称を Fédération Internationale de Lutte Amateur と改称しフランス語を公式用語に採用して、現在に至っている。

このように連盟の生い立ちにも、世界史のそのときどきの足音が顔を覗かせている。今回の調査では、上記のような、変遷史を克明に読み取らせてくれる膨大な資料を手に入れることができた。その解読には、時間と関係者の協力が必要である。

わがレスリングOB会のような大学スポーツ組織は世界に類例のない教育施設である。日本の現在の教育風土で欠如している「人間関係学」を学ぶ場所こそが、「OB会組織」だと言っても過言ではない。

ヨーロッパでは古くから現在に至るまで「クラブ制度」が根づいており、いずこの町の住民も、「クラブ」で、スポーツ活動や文化活動を楽しみながら、市民生活に必要な人間関係学を身につけている。民主主義と個人主義を信条とするヨーロッパ人にとって、クラブこそが、そのための市民教育の核となっているからだ。

日本にもかつて、風土に密着して、「若衆宿」のような、人間関係学の学習の核もあった。けれども現在では、日本社会から、そうした「核」がどんどん消滅してしまっている。この「核」がないと、世の東西を問わずに、人間は磨かれぬ。かくして日本では、大学の「OB会」組織が、体育会活動組織が、その核になりうるとの確信を、今回のヨーロッパ調査でさらに深めることができた。レスリングを通じて、先輩と後輩が繋がる。そこには、たとえば「挨拶の仕方」という基本的

生活技術なども伝授されている。人間関係学が生きているからだ。この面にも、スポーツが、大きな「役割」を持ちだした証左といえないか。

こうした役割を担う我がレスリングOB会の隆盛と母校の体育振興のために、今回の調査成果を、還元しなければならないと思う。微力ながらそう念じつつ努力する所存である。(伴義孝)



上記の手記は平成2年5月に書かれたものであるのだが、平成元年度の「OB会誌」からの引用なので、この節に収録することにした。

4. 平成2年(1990)・激動は続く

風俗・流行・歌 おやじギャル/アッシ
ーくん/♪『おどるポンポコリン』

さてこの激動の時代に関西大学レスリング部OB会は役員改選を行って、新役員のもとに、組織強化を図ることになった。ここに平成元年度までの「役員」と平成2年度からの「新役員」の氏名を記録して、その「奉仕」に対する感謝の意を表しておきたい。

〔旧役員〕

会長 溝畑 武夫
副会長 清谷 利次
副会長 横山 勝利
副会長 松浪 啓一
幹事長 柏木 貞夫
会計 北川 俊治
書記 阿部 進
監査役 東 維明
監査役 友田 次朗

監査役 東條 敏夫

〔新役員〕

会長 清谷 利次
副会長 横山 勝利
副会長 西脇 義隆
副会長 松浪 啓一
幹事長 柏木 貞夫
会計 北川 俊治
書記 阿部 進
監査役 東 維明
監査役 友田 次朗
監査役 東條 敏夫

新役員代表として、「OB会誌」から、清谷利次会長の挨拶をここに掲げておきたい。



平成2年度は、世界的に政治、経済の流れが大きく変化した波瀾の年でした。OB諸兄の格別のご協力を、ご支援により、年間行事を順調に終えることができ、厚くお礼申し上げます。この1年、当然のことながら、OB会の2本柱である、母校のレスリング部の隆盛を図ること、会員相互の交誼を厚くすること、に向けて一歩でも前進することを、第一に運営してきました。

とりわけ春秋リーグ戦の応援、合宿訪問旅行は、現役に刺激を与え、交流を深める場となり、OB会にとっては、懇親と交歓の場となって、OB間の絆も一段と強まり、現役の1部復帰、残留などもあって、現役支援のムードも高揚してまいりました。「会」のあり方として、よりよい方向に、進展していると信じております。

本年は、4名の卒業生が新会員となりますが、OB活動にもできるだけ参加されるようお願いいたします。OB会といたしましては、先輩、後輩が肩肘はらずに、学生時代にレスリングに情熱

を燃やした人間として、年代を超えて、仲間として、リラックスできる楽しい集いに発展させるべく努力をして行く所存です。

OB会運営基金には、諸兄の貴重な浄財を次々にご寄付していただいております。心からお礼申し上げます。基金の運用益は、本会2本柱のさらなる充実発展に向けて有効に活用したいと願っております。諸兄のご理解、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。(清谷利次)

◇

次に「藤田監督所感」に、この年の、概要を訊ねておく。この頃、藤田裕充は、さかんに横文字“Be Tough!”と発破をかけた。「青春のパライストラ1990」前後の現役学生の脳裏に深く刻まれているはずだ。



写真▷平成2年「みんな張り切ってます」

◇

90'年は、結果的に満足できるシーズンを送ることができました。すでに、みなさまもご承知のように、春のリーグ戦において、2部とはいえ他大学をまったく寄せつけずに堂々の優勝を果たし、入れ替え戦においても、名商大を問題にせず圧倒的な勝利で1部昇格を決定づけました。実に胸のすくような試合展開であり、久しぶりに嬉し

い場面に出会ったといえる試合でした。

もし機会があれば、OB諸兄にも、こういう場面で「声」をかぎり応援していただき、昔日の関大レスリング魂を思い出していただければ幸甚でありました。ただひとつの不満は、個人戦においてかんばしい戦績をあげることができず、なかなか思うようにならなかったことでした。

しかし春に勝ったことで自信が生まれ、秋のリーグ戦では、全員燃えに燃えました。戦力的には誰の目にも不利な状況のなかで、(1部の連中に)一泡ふかせるような試合をと、一丸となって戦いましたが、最後には「物量」の差において、いま一步およばず、涙をのむ試合展開でした。

局地戦において勝利しても、それを大局的に見れば喜んでばかりいられないし、関大レスリング部の栄光は遠く、長期王座を築くためには抜本的に考えなければならぬと痛感しています。しかし監督として嬉しいことは、全員が、真面目に練習に取り組んで、4年生になると立派な社会人になるべく、胸を張って旅立って行くことであります。社会人1年生諸君、Be Tough!

(藤田裕充手記「OB会誌」)

5. 温故知新

平成2年度の「温故知新」欄からいくつかを紹介しておきたい。

- ▷ ヒザが痛く両膝をひこずっています。自転車には乗れますので、ご休心ください。清谷会長様はじめ、皆様よろしく。(永田与四郎・顧問・平成3年1月26日)
- ▷ 何時もご案内有り難う存じます。皆様よろしくお伝えください。お蔭様で元気です。ときどき木村正三君とゴルフをやって負けています。(村田恒太郎・顧問・平成3年1月)

29日)

- ▷ 本年7月に結婚の予定です。媒酌人は伴教授です。(関口勉・S60年卒・平成2年5月25日)
- ▷ 今回は(小学校教員のため)林間学校の下見と重なりますので、勝手をさせていただきます。(吉原邦彦・S54年卒・平成2年・5月31日)
- ▷ 先輩(方)のガンバリを肝に銘じて(社会でも)負けないように努力しています。皆様方には、何とぞご健康に留意されて、後進のご指導よろしくお願い申し上げます。(屋麻戸康雄・S49年卒・平成2年5月24日)
- ▷ 最近、私たち鉄鋼関係の企業は毎日殺人的スケジュールで、土曜日休みなしで操業しています。(笹井六男・S44年卒・平成2年5月21日)

6. 大島鎌吉スポーツ文化賞

関西大学体育OB会が中心になって、「大島鎌吉スポーツ文化賞」が制定されたのは、昭和63年度のことであった。そしてその第1回「贈呈式」は平成元年3月30日に挙行されている。大島賞の内容と由来については、「OB会誌」からの引用に読み取ってほしい。この大島賞第3回贈呈式で、関西大学レスリング部OBの市口政光(S37年卒)が「ホップ賞」を受賞した。その模様を以下に紹介しておきたい。



オリンピックを通じて世界の平和を訴え続けた故大島鎌吉(S9年関西大学法文学部卒)の功績を讃え「関西大学体育OB会1582人+α委員会」(会長=久井忠雄・学校法人関西大学理事長)によって創設された「大島鎌吉スポーツ文化賞」の第3回贈呈式が、平成3年3月16日午後3時から、

関西大学100周年記念会館に、来賓、体育OB会員など関係者多数が出席して行われた。

選考委員のひとり北出清五郎氏(元NHKアナウンサー)の総司会で開会。久井会長の挨拶、大西昭男選考委員長(関西大学学長)の講評(北尾郁之介体育OB会長が代読)のあと、賞状、副賞の贈呈に移り、ホップ賞の市口政光氏(S37年卒、東海大学体育学部教授、東京五輪レスリング・グレコローマンスタイル57キロ級金メダリスト)、ステップ賞・同志社大学スポーツユニオン(同大の体育OB会組織、ユニークな会の運営で母校の体育・スポーツ振興に顕著な実績をあげている)の北村光男会長、ジャンプ賞・日本拳法会(関大で生まれた武道・スポーツ・体育として発展、海外5大陸に支部を置き国際普及に尽力)の矢野文雄会長、トリプル賞・ノエルベーカー卿記念碑建設委員会(ノーベル平和賞受賞の軍縮平和運動家故ノエルベーカー卿の考えを日本に根づかすための日英共同の草の根運動)の深崎敏之事務局長に、それぞれ久井理事長から賞状・副賞が贈られた。

振り袖姿のなぎなた部員から受賞者に花束を贈呈。北出氏が当時(東京オリンピック)実況放送を担当した市口氏の優勝の思い出などをインタビューし、受賞者を代表して深崎事務局長が「受賞を機に平和運動にますます力を注ぎたい」と答辞を述べた。記念撮影のあと祝賀会に移り、参加者は受賞者を囲んで和やかな歓談、今後のスポーツの発展と平和運動の推進を語りあった。

当日の関大レスリング部OB会関係の出席者は次のとおりです。

高堂 俊彌	・松井 清	・清谷 利次
横山 勝利	・宇賀大三郎	・佐々木 徹
柏木 貞夫	・西脇 義隆	・市口 政光
神谷 和巳	・荒武 光也	・桂 新次
高田 勝三	・松田 靖彦	・伴 義孝

光富 久弥・石井 正樹・阿部 進
北川 俊治

〔協賛広告協力者〕

東 維明・宇賀 照夫・宇賀大三郎
清谷 利次・松浪 啓一・田辺 嘉之

大島鎌吉(故人)氏は、昭和7年のロス五輪の三段跳びの銅メダリストで、同9年の日米対抗陸上で15メートル82センチの世界新記録を樹立した関大OBの名ジャンパー、11年のベルリン五輪では日本選手団の主将、39年の東京五輪では日本選手団長を務めた。40年には大阪体育大学副学長に就任。スポーツ振興に尽力し、60年3月30日に76歳で亡くなった。

関西大学体育OB会は、「大島鎌吉スポーツ文化賞」の推進母体として、「関西大学体育OB会1582人+α委員会」を設け、会長に学校法人関西大学理事長を迎えた。我々レスリング部OB会も、会員に加入を呼びかけ、60名の賛同者の加入をいただきました。

〔加入者〕

高堂 俊彌・村田恒太郎・渋谷 善章
松井 清・東 維明・木村 正三
宇賀 照夫・木村 勝・東條 敏夫
友田 次朗・古沢 勲・押立 吉男
江南 務・溝畑 武夫・宮本 皖司
清谷 利次・横山 勝利・宇賀大三郎
岸本 盾一・佐々木 徹・大川 寿一
乾 哲夫・丸谷 博俊・柏木 貞夫
西脇 義隆・森川 泰治・盛本 孝司
山本 克幸・中川 清通・市口 政光
神谷 和巳・桂 新次・高田 勝三
福家 義夫・松田 靖彦・松浪 啓一
西本 浩千・伴 義孝・光富 久弥

山本 定夫・鶴谷 正夫・近藤 圭吾
田辺 嘉之・西山 武男・佐藤 秀雄
住谷 昌昭・大津 馨・藤田 裕充
石井 克周・倉橋 裕・長井 暁
阿部 進・北川 俊治・平池 雄三
西岡 禧伯・南口 宏之・西川 雅弘
則包 京子・佐藤 良輔・横山 博行



写真▷大島賞受賞の市口さんを囲んで

7. 平成3年(1991)・ソ連崩壊の年

風俗・流行・歌 ダイヤルQ・成年コミック／チャパツ／♪『SAY YES』

やはり部員数の絶対不足には勝てない。そしてやはり「一進一退」が続く。春秋リーグのその苦闘の軌跡を、最も身にしみて感じとっているのは、前田主将、相田・近藤副将、藤村主務の4回生を筆頭に、この年を闘い抜いた、現役の諸君であろう。この年8月25日、ソ連のゴルバチョフ大統領が、ソ連共産党中央委員会の解散勧告の声明を発表して、共産党書記長を辞任した。そして12月に

は「ソ連」が解体してしまった。清谷利次OB会長は、平成3年度「OB会誌」の巻頭言を、この二つを軸にして、語っている。

◇

平成3年度の諸行事は、諸兄の力強いご支援のもとに、和やかに親睦を深めつつ終えることができ心からお礼を申し上げます。これらの行事を通じて会員相互の絆がより強く培われていくのを感じております。これもひとえに、諸兄の、深いご理解とあたたかいご協力の賜物と厚く感謝いたしております。

今年は、世界中を驚かせ、にわかには信じることのできない、ソビエト連邦の崩壊という大事件がありました。これで、東西冷戦が終結し、共生による、新しい世界づくりが始まりました。この一翼を担う経済大国日本は、バブル経済の破綻によって不況に見舞われておりますが、その状況下で、堅実に歩まれているOB諸兄におかれましては、この不況にも動ずることなく、ご活躍のことと拝察いたしております。

さて、本年も、現役には例年どおりの援助金をはじめ、さまざまな支援を行ってきました。春秋リーグ戦では、OB各位が熱のこもった声援をおくり、当日の昼食時に開催する恒例の懇親会では、新旧OBとその家族も加わっての楽しい交歓の場がもてました。夏には合宿地を訪問したOBは、年齢を忘れて練習に汗を流すなどして、現役を激励しております。

しかしリーグ戦では、選手の頑張りも通じず、春は2部落ち、秋には2部2位どまりで、1部復活ならず、残念な年となりました。これは全クラスにエントリーするだけの選手を揃えられない現状が大いに影響しているのではないかと思います。この現状を打開するにはどうして対処すべきなのか、現場の指導者とともに、研究していきたいと願っています。

一方明るい話題としては、松浪啓一氏（S37年卒）が大坂府議会議員選挙で泉佐野市から初当選されたことを報告しておきたいものです。この当選の陰には、同級生OBを中心に有志OBの、昔も今も変わらない友としての、心底からの暖かい友情による物心両面の支援がありました。これはOB会の良き繋がりの一つが確かめられた証拠だと、意を強くしております。

もう一つ嬉しいニュースがあります。今年度の関大体育OB会総会で、宇賀大三郎氏（S32年卒）が副会長に選任され、OB会にとっては、二重の喜びであり、氏の指導力、行動力、実力は、すでに体育OB会で折り紙付きで評価されております。今後、「関大スポーツ復興」への夢に向かって、ご尽力とご活躍を期待しております。

さらに本年度は、初めて新卒業生を、新年会に招待し、先輩諸兄に紹介することができました。その席上、新OB諸君が、OB会への参加意欲を見せ、現役との合同練習会を開催したいとの抱負を語り、参加先輩諸兄を喜ばせてくれて、「新旧OB」の接点となったことと自負しております。

（清谷利次・「OB会誌」）

◇



写真▷平成3年の「新入生歓迎会」

この年の「温故知新」欄から目立ったものを拾っておきたい。

- ▷ 関西大学の卒業生であり、レスリングのOBであることを、本当に良かったなあ!と心から感謝しています。OB会の皆様一層仲良くしましょう。お願いします。(西脇義隆・S34年卒・副会長)
- ▷ 昨年4月、皆様の暖かいご支援のおかげをもちまして、府議会議員に選出いただきました。今後も一層の情熱をもって邁進いたす所存でございます。尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願いいたします。(松浪啓一・S37年卒・副会長)
- ▷ OB会費が未納だと思しますので、金額を教えてください。(早淵隆弘・S41年卒)
- ▷ 関大一高へレスリング関係の教員を送り込めないものかと、戦略を練っています。そうなれば、OB諸氏の期待に応えて、いまの低迷を脱却することも可能になります。是非とも実現したいので、色々と手をつくしているところです。(伴義孝・S38年卒・総監督)
- ▷ 勝って勉強。負けて勉強。同じ流すなら、嬉しい感激の涙を流そう。(藤田裕充・S43年卒・監督)
- ▷ OB会がこんなにも応援してくれている現状にあって部員の確保がままならず2部に低迷しています。1部復帰を目指し頑張ります。諸先輩の一層のご指導をよろしくお願い申し上げます。(佐藤秀雄・S42年卒・コーチ)
- ▷ 卒業してはや11年が過ぎました。諸々の大会を観戦するたびに思うことは、主役は選手であるということです。現役諸君には悔いのない選手生活を送ってほしいと思います。そのためには努力しかありません。(横山博行・S55年卒・コーチ)

8. 平成4年(1992)・部員9名

風俗・流行・歌 カラオケボックス／もつ鍋・ギャバ／♪『晴れたらいいね』

この1年間は「部員9名」で闘った。当書の「青春のパライストラ1992」欄に、当時の林次郎主将が、「同期がいなくても」の所感を、寄稿してくれている。その林がその年の「活動報告」を「関大体育会誌」に寄せている。



写真▷平成4年の「みんな張り切ってます」

◇

昨年の春季リーグ戦で2部に降格した我がレスリングは3人のレギュラーが卒業したことで今年もまた苦しい戦いを余儀なくされた。9階級あるうち7階級しか揃わず、戦わずして2敗を喫するという状態で迎えた春のリーグ戦。結局2部の3位となってしまった。その屈辱を胸に我々は苦しく激しい夏の強化合宿を乗り越えて万全の態勢で秋のリーグ戦を迎えることとなった。しかし部員のほうは2人しか入部せず、秋のリーグ戦も、2階級なしで戦うことになってしまった。勝った試

合も負けた試合も我ら関大レスラーは死力を尽くした。対戦成績2勝2敗の第3位。これがその結果である。残る2階級さえ、という気持ちが残ったが、終わったことをいつまでも悔やんではいけない。何故なら我々は常に一步上の「未来」を目指す関西大学レスリング部の「レスラー」なのだから。そして今年のすべての試合が終わり、また新しいシーズンがやってこようとしている。

(林次郎手記「関大体育会誌」)



〔ある戦略〕

この年、関大一高から、最後の「部員」が、1人だけ入部してきている。小寺齊人である。彼を最後の一高レスリング経験者としてまさに枯渇してしまったのである。小寺の前は、この年の林であった。彼ら2人の間には、誰も、いない。つまり折角復活した「一高」も風前の灯火であったのだ。この頃、全国的に、高校生の「運動部」離れが進行していた。それも特にレスリングのような、いわゆる「しんどい」「地味な」競技にかぎって、特に、敬遠されているようだった。バブル経済がはじけてもなお、世の中に、ふわっとした空気が漂い続けてしまい、日本の中学生や高校生も、「カラオケボックス」に通うぐらいの気力しか見せてくれなかったのである。そしてこの頃、関大一高の「再建」問題に結論が出ようとしていた。その成否は、関大一高への「教員」送り込み作戦にかかっていた。

平成3年4月に卒業した安田忠典が、卒業する半年前ほどから、「体育」の勉強をしたい、と言いだしたのである。安田は、卒業後、大阪体育大学へ学士入学をする道を選択した。その安田が、この年3月に、大阪体育大学を卒業することになっていた。

「安田を、関大一高に、送り込めないか」

それが、作戦だった。関係者は、できうるかぎ

りの、手を打った。経緯についてすべてを語れば諸々の支障も生じてくるので、ここでは触れない。第1年目に安田は一高の非常勤講師として勤めることができた。好機到来ではあった。そしてすべての条件が整えば、専任教員となる道も開けるだろう。専任教員になりさえすれば、あとは、「時」が解決してくれる。希望が見えてきたし、期待が膨らんでくる。

9. 平成5年(1993)・7人の春合宿

風俗・流行・歌 ブルセラ・コギャル/
インターネット/♪『真夏の夜の夢』

平成5年の春は、徳田博信主将、矢倉隆司副将、小西将史主務の4回生3人に、わずかに4人を加える、合計7人のスタートだった。「関大体育会誌」を通覧すれば、その筆致から、時代の流れが読み取れる。たとえば毎年、100字ばかりの簡潔な「4回生のプロフィール」が収録されているのだが、そこに端的に顕れている。あえて相違を明確に色分けすれば、一方は「型通りの真面目派プロフィール」で、他方は「悪ノリ型プロフィール」となる。その分水嶺は、やはり「新人類プロフィール」という表現法が出現した1986年前後にあるように思う。

まずこの年のプロフィールを引いておこう。

徳田 博信 主将 工学部 旭高

他を寄せつけないスピードと技、圧倒的スタミナで爆進されてこられ、本当にご苦労さまでした。酔うとよく服を脱がれ、ご自慢の「お稲荷様」を見せられていましたが……。

小西 将史 主務 経済学部 洛南高

3年の夏にプロボクサーを目指すがあえなく挫折。最近では通信販売でムエタイのパンツを購入するもこちらも挫折。そんな先輩の放屁を毎日匂わされた僕らは幸せでした？

矢倉 隆司 副将 文学部 関西高

諸葛孔明の如き頭脳を自負され、他を圧倒する自慰量（原文では、「自慰」にカナが振ってあって、「自慰」と表記されている。）は我々を驚愕させました。大変後輩思いの方で、社会人になられても、皆に慕われるシティーガイになられることでしょう。

編集子は、新人類世代からは、「化石人類」と呼ばれる世代に属しているので、「スポーツ新聞的当て字」「流行表現法」「慎みの問題」などに違和感を抱くのかもしれない。だから、前出で、「悪ノリ型」といったまでのことで、別段に非難してるわけでない。この悪ノリ型がすべてにわたって当世風となってる昨今では、「型通りの真面目派」は、もう通用しないのかもしれない。その真面目型表現の見本を一つ紹介しておこう。

西尾 弘治 副将 法学部 桃山学院高

パワー・スタミナ・テクニックの3拍子そろったこの先輩は、まさにレスリングをするために生まれてきたような人です。またクラブの大食漢でもありました。（昭和59年度）

上記は昭和59年（1984）のそれである。このころの筆致もかなりやわらかくなってきている。だが生真面目さがどこかに残っている。感性のこうした微妙な変化が、「時代の相」の差異を生むのも当然かもしれない。編集子が、ここに特筆しておきたかったことは、ただそれだけのことである。

ただこの「差異」を無視してしまえば、新人類と化石人類の「対話」が途切れてしまうことになるだろうと、老婆心ながら心配なだけである。

実のところを指摘しておけば、新人類型表現法をもちいる「青年」たちは、その本質において、真面目すぎるほどに、生真面目なのである。戦後社会の仕組みのなかで、受験勉強第一主義の生活を余儀なくされて、純粋培養されすぎてきたためではないか。その反動が、いわゆる「新人類型表現」に顕現しているのだと思う。だからこそ彼らとの対話が重要になってくる。

「対話」が、大切なものだから、この年も含めてこれ以降に採り上げる「通史」では、特に現役の声に耳を傾けておくことにしたい。



写真▷平成5年「みんな張り切ってます」



慢性的な部員不足という大きな悩みをかかえる我がレスリング部。今年は7人だけの春合宿でスタートした。2人の新入部員を加えて春季リーグ戦に臨むも、京産大、大体大には勝機を見いだすことができず、2部の3位に甘んじた。だが我が関大レスラーは、タダでは、終わらない。

1回生のときに、1部復帰を経験していた4回生は、「夢よもう一度」とばかりにグイグイと下

級生を引っ張り、また下級生も4回生を信じてついてきてくれた。厳しい夏合宿を乗り越えて、秋のリーグ戦合宿で万全の態勢に仕上がった。

春よりも一回りも二回りも大きくなった我ら関大は、もはや京産大を寄せつけず「関大⑤-3京産大」で完勝し、大体大との全勝対決に駒を進めた。死力を尽くした結果は「関大4-⑤大体大」の惜敗だった。

9階級中2階級で不戦敗を喫していることが影響したと言ってしまえばそれまでだが、我ら関大は、2部2位にとどまり優勝できなかったという事実はしっかりと受け止めなければならない。

3人の4回生はランクをひとつ上げることの喜びと、その難しさを、下級生たちに教え、優勝という課題を残して、マットを去っていかれる。残された関大レスラーたちは、その課題を果たすべき、来るシーズンに備えている。来年こそは必ず……。 (「関大体育会誌」)

10. 平成6年(1994)・根が真面目

風俗・流行・歌 援助交際・ヤンママ/
地ビール/♪『ロマンスの神様』

この年、斉藤正志主将と谷山亮介主務の4回生2人に、3回生は天津敏郎、小寺斉人、芳里哲也の3名、2回生「0」、1回生3名でスタートした。副将は、メンバー不足のために置かなかった。学連にも委員を向出させることもできなかった。

6月27日夜11時ごろ、「松本サリン事件」が、起こった。毒ガス「サリン」を発生させて、7人を殺害、155人の重軽傷者を出すという、日本の犯罪史上初めて毒ガスを使った無差別殺人事件であった。いわゆる「オウム真理教」教団の組織的

無差別テロがここから始まる。教団に入信した信者には理工系のエリート大学生が大勢いた。なぜなのか。その年齢層を「オウム」世代と揶揄する論評がある。国公立大学の入試に共通一次試験が導入されて、偏差値信仰が蔓延するなか、大学や高校までの序列化が進み、すべてが偏差値という数字の化け物に左右される時代の「落とし子」をいう。さらに人為による地球生態系破壊の問題などが世界的に採り上げられつつあって、その現実と、偏差値信仰に操られているという無意味にも映るもうひとつの現実との、そのふたつの現実世界の大きなギャップにあえいで、オウム世代の落とし子たちの「精神」が不安定になっていた。

不安定材料が極点に達すれば、耐えかねる連中は、神頼みにもなる。この構図が、オウム世代を捉えて、あのまやかし集団に入信させる動因となった。大方の分析は、そうである。裏返せば、オウム世代の若者にとって、「自分探し」の生活環境が身辺から消滅しかけていたからこそ、何かに縋りつくために、藁をも掴む心理が働いたのである。戦後の日本社会がその種を蒔いたことに起因する、青少年を駄目にしてしまう、「不安の時代」の始まりではある。

不安でたまらない若者に独特の語り口が流行したのもこのころからである。話す途中でキーワードがでるたびに、一瞬の間をおいて、その語尾の発声を上滑りに発音して、相手に同意を求めるあの話法である。特に若い女性のあいだで急速に広まった。なぜか。「不安」であるからだ。「自分がない」からだ。「認めてほしい」からだ。

関大レスラーにも、共通一次試験世代には、こうした不安症候群に悩んだ者が多いはずだ。そして関大に入学した彼らは、レスリングの門をたたくことによって、「自分探し」を試みようとしたに相違ない。平成6年前ころから、その傾向が、一般的にも最高潮に達したように思われる。入部

したものの、馴染めなくて、頓挫してしまう。このころから急激にこうした退部者が続出するようになった。部員の絶対不足のおりからして、この不測の事態が関大レスリング部を、再度、窮地に追い込む働きをすることになった。「再度」と書いたのは、「1度目」がああ大学紛争前後の経験を指してのことである。だが今次の特徴の方が深刻であるように思える。この年の関大レスラーの陣容には、大いに、ここに述べてきた原理が働いている。4回生も、3回生も、一時は、2倍も3倍もの員数を数えていたはずである。2回生もかなりの数はいた。1回生も3人だけではなかった。

ここに平成6年度の関大レスリング部員の記録を「関大体育会誌」からすべて引用しておくので、その論調や、文中の隠喩や直喩から、あるいは用語法の裏側に潜む真意から、この世代の大学生の「訴えたい心情」を読み取っていただきたい。



写真▷平成6年の「卒業式の1コマです」

〔活動報告・1994〕

白浜での春合宿、今年は、絞られて重体の者1名。チン毛ファイヤーによる重症者2名を出した以外は、何もありませんでした。春季リーグ戦、打ち上げの席でチン毛ファイヤーの失敗による第

2級「火傷」1名がでました。夏合宿、ロケット花火をよけきれなかった者1名、病院へ運ばれました。秋季リーグ戦合宿、ホモの自殺未遂、チン毛ファイヤーの不始末によるボヤ騒ぎなど、いろいろな事件がありました。秋季リーグ戦、チン毛ファイヤーがトランク스에引火して、蟻の戸渡りが焼けてしまいました。（編集部注：もちろん、冒頭に「この年の戦績欄」があって正確に記録されている。戦績記録については、「青春のパライストラ1994」を参照されたい。）

〔4年間を振り返って〕

とうとう私もマットをおりる瞬間がきてしまった。この関大レスリング場は日本屈指の変な人たちが彗星のごとく通り抜けてゆくのだ。私もそのうちのひとりなのだろうか。何はともあれ卒業するにあたり、私を支えてくれたみんなに「ありがとう」を言いたい。たったひとりの同級生の最藤（仮名）、ご苦労だったな。これからは思う存分女の子のケツを追い回すがいい。甘津（仮名）、せっかくジャングルファイヤーを体得したのだから試合で使うんだぞ。デブッちょの古寺（仮名）、愛車に乗ったお前は格好いいかもしれないが、つりばん姿のお前はとても気色悪かったな。芳理（仮名）、感じ悪いのは別にして、「平安女学校」もいいけど「おとなのえほん」もいいじゃないか。頭が悪くて誠意のないホモ（吉村＝仮名の愛称）よ、あこがれの得田（仮名）先輩が卒業されてからこの1年間は元気がなかったな。う〇こ好きの歯間（仮名）ちゃん、胸を張って歩くんぞ。恵羅（仮名）、下の世話は甘津先輩に頼め。伊田（仮名）レスリングシューズのひものは赤が一番いいんだぞ。みんな、本当にありがとう。後輩諸君、来年こそ1部復帰を果してください。そして、22歳にもなってこんなことしか言えない「私」を許してちょうだい。

〔こぼれ話〕

脳ミソおこぼれ軍団、関大レスラーズには、こぼれ話など無縁である。しかしあえて書くなら、部員のほとんどが、人の半分以下の脳ミソと陰毛しか所有しておらず、打ち上げでも、いつも、熱くもえさかっていることぐらいであろうか。しかし我々は流れ落ちる脳ミソを、ぬぐおうともせず、日々精進しているのである。

〔4回生の方へ〕

4回生のみなさん、ご卒業おめでとうございませぬ。関大レスリング部の良識として、放送禁止用語の濫発に歯止めをかけてくださった斉藤さん。常にクールで、そして時折見せる熱い情熱、レスリングに対する心構えは、あなたから学びました。あの「頭突き」、絶対に忘れはしません。関大レスラーのすべてを体現しておられた谷山さん。その不屈の闘志とレスリングを愛する心。我々は受け継がねばならないでしょう。あの50分におよぶスパーリング、そして放たれた2発のパワーボム。臉に焼きついて離れません。いたらない我々のこと、随分もどかしく思われたことでしょう。それでも決して見離すことなく、暖かく見守ってくださった先輩方に、いまは感謝の気持ちで一杯です。思えば、先輩方は、言葉ではなく身をもってレスラーのあり方を示してくださったのでしょう。それに我々は甘えすぎていたのかもしれない。しかし今度は我々がその役目を果たす番です。頼りなく思われるでしょうが、大丈夫です。先輩方が愛されたこのレスリング部の伝統、きっと守り抜いて見せます。4年間ご苦労さまでした。そして有り難うございました。

〔合宿日記〕

今年度の夏合宿も昨年と同じく、島根県松江工業高校で行われた。例年どおりのハードな練習の

ほかにも、「高所恐怖症10mダイブ」「カナヅチ強制遠泳」「ロケット花火ホモ狙いうち」などの楽しいイベントが目白押しだった。6日間の辛い日々の最後に待ちに待った打ち上げ。旅館で酒を飲み干す3回生のK・Y・Aの3名はKの愛車スカイラインで夜の街にくり出した。たまりにたまったフラストレーションが爆発する。疾走するスカイラインの屋根にしがみつきながら、ナンパするA。信号待ちのお姉さんの前に急停車し、トランクからフ○チンで飛び出すY。練習で大怪我した足を引きずりながら、墓場に放尿するK。そうして松江の夜はふけていったのであった。



とにかく当今の若者は、コンパなどでのパフォーマンスが得意である。おそらくテレビ番組でのヒット・パフォーマンスにしても下劣なものが受けるのだから、致し方のないことかもしれないものの、陰毛に火をつけたりする「チン毛ファイヤー」なるきわどいものもポンポンと飛び出す。やり場のない「不安」を抱える世代が編み出した一種の欲求不満解消法かもしれない。関大レスラーはそれを座興に採り入れたのであろう。こうした大学生活を送る関大レスラーたちも、藤田監督に言わせれば尚更のことに強調するだろうが、「関大の4回生は筋がとおっている」のである。さらに関大レスラーも一様に生真面目ではあるのだが、その生真面目さもこの4年間の辛抱で角が取れて、人間に厚みができてくる。

ところで「オウム真理教」に入信した若者たちは、いつまでも、生真面目であったそうだが、気にかかることではある。さらに、生活のなかで、「しても善い」「しては悪い」の判断ができない子どもが増えてきていると言われている。こうしたことが、これからの、大学スポーツとどう結びつくのだろうか。

(完)

大島鎌吉スポーツ文化賞は、「関西大学体育OB会1582人+ α 委員会」が中心になって、その規程を昭和63年12月19日に制定して制定された。その名称の由来は次のとおりである。

「1582人+ α 委員会」の名称は、故大島鎌吉氏が昭和9年に樹立した三段跳びの世界記録15メートル82センチに由来します。関西大学体育OB会員のなかから世界記録にちなんだ1582人の賛同者で、まず推進母体をつくり、基本基金を設置します。さらに関西一円の体育・スポーツ愛好者に呼びかけて仲間を増やし、「+ α 委員」としてご協力をお願いしようというわけです。つまり、「+ α 」の発展の可能性をもつスポーツ愛好者の文化活動です。（「大島賞の葉」）

大島鎌吉スポーツ文化賞には、下記（写真）の第3回贈呈式に事例を借りるならば、4賞がある。

- ▷ ホップ賞：関西大学スポーツ文化賞＝市口政光氏（賞状を手にする真ん中4人の右端）
- ▷ ステップ賞：関西大学生スポーツ文化賞＝同志社スポーツユニオン（北村会長・受賞者右から2人目）
- ▷ ジャンプ賞：日本スポーツ文化賞＝日本拳法会（矢野会長・左から2人目）
- ▷ トリプル賞：国際スポーツ文化賞：ノエル・ベーカー卿記念碑建設委員会（深崎事務局長・左端）

東京五輪金メダリストの市口政光氏（S37年卒）は、現役を引退後の、幅広い活動が次のように評価された。

……現役選手を引退したのちは、日本ナショナルチームの監督・コーチを歴任し、各オリンピック大会をはじめ、各種大会における輝かしい日本レスリングの活躍に大きく貢献した。現在では、東海大学体育学部教授（コーチ学専攻）として後進の指導に当たり、一方で日本レスリング協会の科学委員会委員長として活躍中。市口氏が独自で開発した「レスリング競技分析法」は、国内外で高く評価され、世界のレスリングの発展に寄与している。また市口氏は、市民スポーツの振興にも早くから着目し、日本におけるトライアスロンの普及にも尽力している。（第3回贈呈式「プログラム」）



写真▷1990年度（第3回）大島鎌吉スポーツ文化賞記念写真